

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型にふさわしい事業所独自の理念があり、管理者及び職員は常に理念を共有し業務に反映させている。	開設時に理事長と管理者とで検討し、事業所独自の理念を作成しました。事業所内の目に付く所に掲示をする他、忘年会時に全員で理念を復唱するなどして職員に理念を浸透させています。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	米・味噌・牛乳など地域の方から購入し、毎日の買い物は近所のスーパーを利用している。又、自治会にも参加し回覧板を回している。ホームの除雪を近所の方が引き受けて下さるなど地域の方とのつながりが保てている。	地元の保田小学校の生徒が遊びに来てくれたり、保育園の園児がホームに来てくれ、歌を披露してくれるなど地域との交流を行っています。また、近所の方がホームの除雪を手伝ってくれたり、事業所の広報を地域の3箇所のコンビニエンスストアに張らせてもらうなどの付き合いも行っていきます。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域住民の方から参加して頂き理解を求めている。又、市役所の提案で管理者が地域の方を対象にグループホームについて話しをした。少しずつではあるが、理解をして頂けているように感じる。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者やサービスの現状・評価への取り組み状況などを報告し参加された方々からも意見を頂いている。話し合われた内容は全て文章にし玄関にて提示しサービス向上にも活かす努力をしている。	自治会長や市の担当者などに参加していただき、運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催しており、事業所からの報告に加え、参加者から寄せられた意見や要望は参加者の協力を得ながら、計画を立てサービスの向上に活かされています。また、全ご家族への参加の呼びかけも行われています。	運営推進会議には地域包括支援センター職員にも声かけし、参加していただくように検討されることを期待します。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者は常に市役所の担当の方と連絡調整を行っている。事故発生時などもその都度報告をしている。	市の担当者には運営推進会議にも参加していただき、事業所で4ヶ月に1度作成する広報も市の担当者と市内の地域包括支援センターに持参し、事業所の状況の報告を行うなどして、協力関係を築いています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみとし開設以来継続している。又、年に1回身体拘束の内部研修を行い、全職員が理解し業務にあたる為身体拘束はしていない。	ホームとして身体拘束は行わない方針のもと、虐待防止と併せて毎年継続的に身体拘束に関する研修を実施することで、全職員が身体拘束による弊害を理解し、拘束しないケアが徹底されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の業務の中でも職員同士で言葉の掛け方などささいな事でも注意しあっている。又、年に1回虐待に関する内部研修を行い全職員虐待に関してきちんと理解している為虐待はない。	身体拘束と併せて毎年継続的に虐待に関する研修を実施しています。また、日常の中で、声掛け等が精神的な虐待になっていないか職員相互に注意を払い、少しでも気になる場面があれば、即指導するような関係作りがされています。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム全職員それぞれで学習を行っており、必要に応じて職員間で話し合いを行っている。又、成年後見人が付いている利用者がある為、日頃から学ぶことができている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に書かれている内容を十分納得して頂けるよう、時間を掛けて説明をしている。又、改定があった際は家族の集いで説明し納得して頂いている。集いに参加できないご家族様からは委任状を提出して頂いた。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場や普段から直接意見・要望を受け、全職員で検討し運営に反映させている。外部へは運営推進会議の報告書を提示し表わす機会を設けている。	日々の面会時、6ヶ月に1度のカンファレンス、運営推進会議の他、夏祭りの際「家族の集い」として家族会を行っており多くの意見をいただけるようにしています。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議・リーダー会議・管理者会議等で全職員は意見を出し合っている。又、代表者・管理者は常日頃から職員の言葉に耳を傾け、運営に反映している。	毎月のユニット会議、リーダー会議にて職員との意見交換の場を設けているほか、年に1度は理事長・管理者に対する要望のアンケートを職員に提出してもらい、その内容を運営に反映できるよう努めています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者・管理者は職員個々の勤務状況や努力を把握しており、各自の向上心を伸ばせるような声掛けに努めており、職場環境の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間を通し看護師・消防士・救命士・管理者・研修係が内部研修を行い、外部研修にも多くの職員から参加してもらい、スキルアップにつなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同市内のグループホーム間で交換研修や管理者会議・交流会を行っておりサービスの向上に努めている。又、市内の外部研修にも一緒に参加し様々な意見交換・相談を行える環境にある。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人と関わる時間を多く持ち、不安なこととは何か・何を求めているのかを探り・受け止め、安心して生活できるよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安に思っていること・困っていること・何を求めているのかをお聞きし、ご家族の気持ちを受け止め・共感することで良い関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の状況をお聞きし、現状を把握する。その上でケアマネと相談し必要に応じた、最も良いケアが行えるよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬し日々学ばせて頂く気持ちを忘れないようにしている。又、常に支え合える関係であり、家族の一員として思ってもらえるよう努めている。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月1ヶ月の様子を手紙でご報告している。又、面会時にはゆっくりお話が出来る場を設け職員も加わり沢山のお話をするよう努めている。職員だけでは支えていけないので、日頃から全ての事をお知らせすることで共に支えていく関係づくりを築くよう努力している。	年に4回広報を作成し送付しているほか、担当者が毎月お手紙を作成し送り、ご家族と情報を共有できるようにしています。また、面会時などは話を伺い、6ヶ月に1度のカンファレンスにも参加していただけるようにし、協力関係を構築しています。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人やご家族から話しをお聞きし、馴染みのある場所へお連れしている。又、誰でも来所しやすい雰囲気づくりを行い、親戚・友人との関係が途切れないよう努めている。	ご利用者・ご家族からの情報のなかで、実家へのドライブやご利用者の息子さんの中華料理屋への外出などの馴染みの場所へ行ったり、毎日の買い物やご家族の協力を得て理美容支援など、馴染みの関係を継続できるよう支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者一人ひとりの性格を把握し、気の合う方ができるよう関係づくりのお手伝いをしている。病気が原因で関係づくりが難し方には、職員が間に入り孤立しないようお手伝いをしている。又、両ユニット・デイサービスで関わりを持ち、交流を深めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用を終了された後、ご家族とお会いすると本人の様子をお聞きしたり、直接面会に伺ったりしている。現段階では相談された事はないが、今後あれば出来る限りの対応をしたい。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話やコミュニケーションを大切に、そこから一人ひとりの意向や思いをくみとるよう努めている。又、困難な場合はご家族からの意見も取り入れている。	日々の生活の中で確認したご利用者の意向や面会の際などにご家族から聞いたことは生活記録に記入し、職員間で情報を共有し、ご利用者の支援ができるようにしています。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や情報を、ご本人・ご家族から得てシートを作成する。入居されてからもご家族・親戚から新しい情報を集め、全職員で把握に努めている。	センター方式の書式を活用し、個々のご利用者のこれまでの暮らしの情報の整理しています。職員がセンター方式を理解できるように研修も行っています。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は出勤したらまず記録を読みお一人おひとりの過ごされた様子・心身状態の確認・新しい情報等を把握している。又、職員間の口頭での申し送りも大切にしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画を立てる前のカンファレンスには、出来る限りご家族に参加をして頂き現状をお伝えした上でご意向を伺っている。又、ご本人の思いも会話の中から引き出し、その人らしい生活を送れるよう計画書に反映させている。今までは3カ月に1度プランの見直しをし立て直してきたが、今後は半年に1度の見直しを行い、変化が見られない場合は1年様子をみることにした。しかし、状態に変化が見られた時は、時期関係なく立て直しを行う。但し、モニタリングに関しては毎月行い様子を観察していく。又、今後はアセスメントにも力を入れ、会議を行う予定である。	カンファレンスへの出席が困難なご家族へも、介護計画の立案に加わっていただくよう、来訪時に介護計画に関する意見や要望を伺うよう工夫されています。また、6ヶ月に1回カンファレンスを開催し、見直しを行うのみならず、毎日の経過記録の記入による評価と毎月のモニタリングにより、状態やニーズと計画にギャップが生じる場合は即座に見直しが行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランの実践状況・結果を生活記録に記入している。又、ご本人の言葉・職員が感じとったご本人の思い・そこから感じた職員の思い・今後の対応についての考えも細かく記入している。そしてサービスの見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診はご家族をお願いしているが、急変の時やご家族の都合がつかない時はこちらでお連れしている。又、理美容に関してもご家族がお連れできない時は、外部の理美容師をお願いし対応している。又、リネンの洗濯に関してもご家族が取りに来れない場合は、こちらで対応している。 又、グループホームでの生活が難しくなるとご家族は別の施設を探されるが、その場合は管理者も様々な施設に連絡をとり出来る限りの対応に努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや子供達に慰問して頂き、交流を図っている。その中で一人ひとりの得意な面を出して頂き、歌・踊りを楽しんで頂いている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ病院・医院等に受診して頂いている。受診の際は必ずご本人の様子や相談ごとを記載した手紙を渡して頂き、その都度的確なご指示を頂いている。	ご本人、ご家族の希望する医療機関にて受診してもらい、どの医療機関に受診する際も事業所からの手紙を書き、付き添うご家族を介して医師との情報交換が行われています。また、ご家族の付き添いができない場合は職員が受診支援を行っています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が出勤の時は、少しでも気になる事を報告し指示をもらっている。又、年間を通して看護師から内部研修を行ってもらい、入居者様の対応に活かしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は必ず管理者が出向き、医師・ご家族と今後の相談をする。又、情報提供を行いスムーズに治療にかかれるよう努めている。 又、何も無い時も相談をさせて頂くなど良い関係づくりを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化してきた時はご家族・医師と相談し、ホームの方針・できることをご説明し納得して頂けるよう努めている。又、医療機関と連携し安心して生活して頂けるよう努めている。ターミナルケアについては今のところ考えていない。その旨をご家族にもお話し納得して頂いている。しかし、改めて全ご家族に文書として出す準備をしている。	契約時にグループホームとしてできることをご説明し、同意を得ており、医療的な支援が必要な場合は特養や病院に移っていただいています。	事業所としてターミナルケアの方針を作成し、職員間でも対応方法の共有をされることを期待します。
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回ではあるが、消防署の救急隊の方に来て頂き救急講習を受けている。又、看護師より1年を通して様々な時の対応を学んでいる。	消防署の職員による救命講習を事業所で行っているほか、看護師による指導も随時行われています。	
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制度を築いている	年に3回は様々な想定で訓練を行っている。地域の方にはまだ参加して頂けていないが、災害の時に何か手伝えらると思うと声を頂き、次回は参加をお願いする予定。一番近くに地域の消防団の方もいるので、その方にも参加をお願いしていく。	6ヶ月に1回の避難訓練の他、年に一度隣接するデイサービスと合同で避難訓練を行なっています。避難訓練には地域の方への参加もお願いしています。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方に合った声掛けや言葉遣いをする事でプライバシーを損なわないようにしている。又、現場で入居者様に適さない言葉が出ている事に気付いた時点で注意し合っている。	契約時にプライバシーの取り組みに関する説明をし同意を頂いているほか、現場でご利用者に対する職員の言葉遣いにも気が付いたらすぐに指導するなどの対応も行っています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の希望やその他を自己決定できるよう声掛けにも工夫をしている。会話や表情・仕草からも思いを汲み取り、できる限り要望に応えられるよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様お一人おひとりのペースに合わせ思い思いに過ごして頂いている。希望通りにいかないときには、話し合い納得して頂けるようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択は入居者様がされている。時には職員も一緒に選びお洒落を楽しんで頂いている。毎朝の整容・入浴後の整容も入居者様が満足できるよう鏡の前で職員もお手伝いする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に1回希望献立の日を設け、入居者様の希望に添えるようにしている。盛り付け時の彩りなどの見た目にも気を付け食事の時間を楽しめるよう工夫している。準備や片付けなどの家事にも参加して頂き、張り合いを持てるよう支援している。	週に1度、希望献立の日を設け、聞く機会を作ること、ご利用者の希望に添えるよう配慮されています。また、準備、食事、後片付けも職員と状態に合わせてご利用者が共同で行われています。事業所の畑で野菜の収穫と一緒に楽しんだり、お寿司やラーメンに外食へ行く機会も設け、食事を楽しんでいただけるように努めています。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日30品目以上の食材を取り入れた献立作りをし、栄養バランスに気を付けている。又、入居者様お一人おひとりの体調に合わせた食事を提供している。水分も食事以外でもこまめにお出ししている。又、好みの物をお出ししたりその時の状態を見て必要と思われる物を提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お一人おひとりに声を掛け口腔ケアをして頂いている。その方に合わせた付き添いや介助・仕上げ磨きを職員がお手伝いさせて頂いている。又、週に2回義歯を薬品で消毒する日を設け清潔を保っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	起床時や食事の前後にトイレの声掛けや誘導を行い排泄を促している。リハビリパンツの使用を減らせるよう努力し、入居後使用しなくても済んでいる方はいるが、認知症の進行で難しくなっている方も増えた。	排泄パターンの把握するまでは排泄チェックを行い、おむつの使用を減らせるような取り組みや、夜間の失敗の際、隠さなくてもいいよう部屋に入れ物を置く工夫などがされています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認を記録に残し把握している。飲食物で食物繊維を取って頂けるよう工夫をし、毎日午前中には体操を行っている。その他も買い物に行ったり、ホーム内を歩く機会を設け個々に応じた予防に取り組んでいる。それでも便秘が続く方については、かかりつけ医と相談し下剤を処方して頂いている方もいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2日おき位に入浴して頂けるよう声をお掛けしている。その日の状態や希望によって変更し気持ちよく入浴して頂けるよう配慮している。又、普段他の入居者様の前で歌を唄われない方も浴室では職員と一緒に唄うなどされ、楽しんで頂いている。	入浴のスケジュールは作成するものの、気候やイベント、ご利用者の希望や気持ちに応じた柔軟な対応が図られています。また、入浴を嫌がる方への声かけの仕方やタイミングが職員間で共有されています。月岡温泉の足湯に出かけたり、ゆず湯など季節に応じた湯を楽しんでいただいています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日を通してご自宅にいた時と同じように休息して頂いている。又、季節に応じて居室の温度調節を行い気持ちよく休んで頂けるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人おひとりの内服の内容は把握した上で取り扱っている。変更や追加がある度にきちんと把握してから服薬のお手伝いをしていく。服薬後の変化を見逃さず、かかりつけ医や調剤薬局と連携を取り対応している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの生活歴を把握し、その方が得意とする事をお願いしたり、希望のある事をして頂く場の提供をし楽しく生活して頂けるよう支援している。又、買い物やその他の外出・ボランティアの慰問等で気分転換をして頂けるよう配慮している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日希望に沿って外出して頂く事はできないが、ご自分から外へ出る事を止めず危険のないよう見守りを行っている。必要時は上手に声掛けをし、職員と一緒に散歩をしてから戻って頂いている。又、普段行く事のできない場所に出かけられるようほぼ毎月外出・外食をして頂いている。しかし、ご家族の協力を得ることは実現していない。地域の方からの協力も実現していない。	天気の良い日は散歩をすることや、買い物などのドライブをするなど、可能な限り戸外に出られるよう支援されています。また、季節に応じたお花見、あやめ祭り、ぶどう狩り、きのこ狩りなどの外出行事を企画し、ご利用者に外出を楽しんでもらっています。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人用のおこづかいは事務所の金庫で管理させて頂いており、希望に応じて好きな物を購入して頂いている。又、ご家族了解の上、ご自分で管理されている方もいる。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望された時はご自分でかけて頂いたり、職員が代行させて頂いたりしている。又、写真つきの年賀状を作成し、可能な方には一言書いて頂き送らせて頂いている。それ以外にも面会に来られた後、写真と一緒に御礼状をお出ししお返事を頂いたりしている方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節の花を飾り四季を感じて頂けるよう配慮したり、入居者様の写真を飾り目で楽しんで頂けるように配慮している。トイレはその方それぞれ落ち着く場所があるので、その方にあった場所へ誘導している。居室以外のホーム内は、出来る限り余計な飾りはさげ、入居者様が喜んで下さる物のみにするよう工夫をしている。	廊下の数箇所にソファが配置され、休んだり集ったりすることができるよう配慮されています。また床暖房や加湿器による湿度対策も行われています。また、装飾は華美にならず、職員が知恵を出し合い適度にご利用者の作品や心を打つ良い言葉などが目線を配慮して飾られています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、好きな所に座って頂いていたところ、全員の場所が決まってきた。その中で気の合う方と過ごされている。状態によっては他の入居者様と一緒に過ごす事が難しい方もいらっしゃるのでは、その場合は必ず職員が入り過ぎて頂いている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真や使い慣れた家具・好みの物を置いて頂くようお願いをされており、居室でも安心して過ごせるよう配慮している。又、ご家族・親戚の方から頂いた物を飾るなどし、喜びを継続して頂けるようお手伝いしている。	使い慣れたベッドなどの家具や愛着のある品物を持ち込んでもらえるよう推奨し、ご利用者が居心地良く、安心して過ごせる居室になるよう配慮されています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	敷地内・建物内全てバリアフリーで手すりもあるので、お一人でもホーム内を行き来できるようにしている。しかし、加齢と認知症の進行から常に見守りが必要な方が増えており、安全な中で自立した生活が送れるよう支援している。		